

リ、云フ竹實ヲ以テ製スト、記文ヲ添フ曰、○中夏のころより、山谷のみすゝ實をむすぶ事おびた
だしく、みな人打つどひ、是をひろひあつむるに、日々に兩三俵を得たり、あらかじめ是を數へたら
らむに、凡五六萬に過し、是まつたく戸隠の惠ならんこと尊ぶべし。

戸隠のみすゝの竹になれる實はふりにし神のめぐみなるらむ、邦守
右竹實をもて製し侍る御菓子なり、則戸隠山の御供を御戴被成候にひとしく御座候間、宜御披
露可被下候以上、

みすゝかる信濃國いもの里白雪齋製

信州善光寺西町御菓子所 府野屋清吉

〔多識編三才圖會八十五〕竹茹和名今按太計乃阿末波太、

〔和漢三才圖會八十五〕竹茹 俗云竹甘膚可レ用淡竹削去筠取用皮肉間、

氣味甘寒 治嘔噦、吐血、鼻衄ノシテ、五痔、膈噎、傷寒、勞復、婦人胎動、小兒熱癆、

接用竹茹絢糾繩爲火繩、以爲行人煙草火、獵人爲鳥銃之用、勢州鈴鹿關作之者多、

〔和漢三才圖會八十五〕竹黃 竹膏 天竺黃

本綱竹黃諸竹內所生、如黃土著竹成片者往往得之、今人多燒諸骨及葛粉等雜之、

氣味甘寒 治小兒驚風天弔、去諸風熱鎮心明目療金瘡、治中風失音不語、小兒客忤痼疾、

按天竹黃卽諸竹三四月斫者、經日破裂之、内多有天竹黃、蓋濕熱熾於内、暑熱蒸於外、自生蛀然乎、未見蟲形、黃粉輕虛者也、藥肆取筱竹外節所有黃粉充竹黃不可用、

一種有竹蛀屎、古竹生蠹者、内肌食盡有小孔腐爛而生白粉、此與天竹黃一物異品也、瘡癤膿爛者傳之愈、

〔重修本草綱目啓蒙〕天竹黃 タケミソ 一名空箇玄

藥性 築要

鳩路戰娜明金經